



「カリキュラム・マネジメントの充実」

北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班作成指導資料

平成29年3月31日に告示された新学習指導要領の「総則」における「解説」について、前回に引き続き指導資料を作成しました。

本指導資料No. 7では、学校訪問時に多くの学校で説明させていただいた「カリキュラム・マネジメントの充実」について、改めて、その考え方や、教職員一人一人が参画しなければならないことなどについて内容等を整理しました。

各学校においては、先行実施や、全面実施に向けて、各自の立場においてできることは何かについて整理し、各教科等において円滑な指導が行うことができるよう校内研修等で活用願います。

4 カリキュラム・マネジメントの充実（第1章第1の4）

4 各学校においては、児童や学校及び地域の態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要となる教育の内容等を教科等横断的に評価してその改善を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

※新小学校学習指導要領解説「総則編」P40から抜粋

新学習指導要領「総則」第1の4 「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面

①児童生徒や学校、地域の**実態を適切に把握**し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点で組み立てていくこと**

②**教育課程の実施状況を評価**してその**改善**を図っていくこと

③教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保**するとともにその**改善**を図っていくこと

教育課程に基づき**組織的かつ計画的に**各学校の**教育活動の質の向上**を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

目的・目標を達成するために各学校が取り組むべきこと

学習指導要領を踏まえつつ、子どもたちや地域の現状・課題を捉え、各学校が設定する学校教育目標を実現

↓

教育課程を**編成**し、それを適切に**実施・評価**し、必要に応じて**随時改善**する。

↓

「カリキュラム・マネジメント」

一連のサイクル

Point 「カリキュラム・マネジメント」は、**全ての教職員が参加**することによって、学校の特色を創り上げていく営みです。**管理職や教務主任のみならず**、生徒指導主事や進路指導主事なども含めた**全ての教職員**が、教育課程を軸に**学校や自らの役割に関する認識を共有**し、それぞれの校務分掌の意義を子供たちの資質・能力の育成という観点から捉え直すことが大切です。

つまり、管理職のみならず**全ての教職員**が「カリキュラム・マネジメント」の必要性を理解し、日々の授業等についても、**教育課程全体の中での位置付けを意識**しながら取り組む必要があります。

※H28.12.21 中教審答申から抜粋

「カリキュラム・マネジメント」を効果的に進める教育課程編成等の手順の一例

学校において実際に教育課程の編成や改善に取り組む際の手順の一例を参考として示しますが、教育課程の編成や改善の手順は必ずしも一律であるべきではなく、各学校がその実態に応じて、創意工夫を重ねながら具体的な手順を考えるべきものである点に留意する必要があります。

- 1 教育課程の編成に対する**学校の基本方針を明確にする。**
 - ア 学校として教育課程の意義、教育課程の編成の原則など、編成に対する基本的な考え方を明確にし、**全教職員が共通理解**をもつ。
 - イ 編成のための作業内容や作業手順の大綱を決め、作業計画の全体について**全教職員が共通理解**をもつ。
- 2 教育課程の編成・実施のための**組織と日程**を決める。
- 3 教育課程の編成のための**事前の研究や調査**をする。
- 4 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める。
- 5 教育課程を**編成**する。
- 6 教育課程を**評価し改善**する
 - ア **評価の資料を収集し、検討**する。
 - イ **整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかに**する。
 - ウ **改善案をつくり、実施**する。

全ての教職員が教育課程の編成等に参画することが重要です。

教育課程を軸にした「教育活動や学校運営の不断の見直し」